



## 世界経済・金融市場のトレンド

### 1 中東情勢の緊張緩和期待からリスク選好継続

2月末から交戦状態に入った米国・イスラエルとイラン。4月上旬の米国とイランの停戦合意以降、戦闘終結への期待からのリスク選好が継続。グローバルに株価は上昇しています。原油価格高止まりによるインフレ懸念を背景とする世界的な金利上昇が、株価の重石になる場面が一時ありました。

米国株は引き続き堅調。中東情勢の緊張緩和期待に加え、AI(人工知能)半導体関連への需要期待が株高要因となりました。予想以上に好調だった米企業の1-3月期決算も追い風。ハイテク株比率の高いナスダック、S&P500、NYダウの主要3指数が過去最高値を更新しています。

日経平均は月間で7千円を超える大幅続伸。中旬には利益確定売りや長期金利上昇(一時2.8%と約29年半ぶりの高水準)を嫌気して6万円を割る場面もありました。その後は米ハイテク株高、今期の増益基調期待などから値がさ株主導で初の6万6千円台乗せ。東証TOPIXも約3ヵ月ぶりに過去最高値を更新しました。

### 2 原油価格の高止まりなどを背景に円が全面安

ドルは反発。米国とイランの停戦合意をきっかけとする「有事のドル買いの巻き戻し」(ドル売り)は5月上旬までに一巡。米インフレ懸念の再燃をきっかけに米利上げ観測が台頭、中旬以降はドル買いが先行しました。主要通貨に対するドル指数は98割れから99程度まで反発。

円が全面安。4月末、ドル円の160円台で政府・日銀は円買い・ドル売り介入を実施しましたが効果は限定的でした。ドル円は米利上げ観測を背景とするドル買いと、介入警戒感からの円買いの綱引きで158~159円台で膠着状態。ドル以外の通貨に対しては原油価格の高止まり、日本の財政悪化懸念などから円売りが先行しました。

ドル反発でユーロ、豪ドルは対ドルで軟調。ユーロ円は185円台と過去最高圏で推移しています。

### 3 リスク選好で新興国株は堅調、新興国通貨は高安まちまち

リスク選好の動き継続で新興国株が堅調。特に主要なAI半導体銘柄を含む韓国総合指数、台湾加権指数は過去最高値を更新しています。新興国通貨は高安まちまち。

中国では引き続き個人消費が低迷。4月小売売上高は前年比+0.2%と2022年12月以来の低水準となりました。目ぼしい打開策は乏しく中国政府はインバウンド需要取り込みに注力する方針。そうした中、世界的な株高を追い風に上海株は約11年ぶりの高値を一時付けました。その他で目立ったのはインド。資源輸入国であることが嫌気され株安・インドルピー安が続いています。ルピーは一時対ドルで過去最安値を更新。



## 最近の出来事

| 評価 | 日付     | 国/地域     | 経済指標やニュースなどのイベント                                   |
|----|--------|----------|--|
| -  | 4月 30日 | 日本       | 政府・日銀が為替介入～円買い・ドル売り介入は2024年7月以来。5月1日、4日、6日も介入した可能性 |
| -  | 5月 8日  | 米国       | 4月雇用統計～雇用者数は予想を上回った一方、時間当たり賃金は予想を下回るまちまちの結果        |
| -  | 12日    | 日本       | 4月日銀会合「主な意見」～原油価格高騰に伴う物価上振れに懸念を示す意見が相次ぐ            |
| ●  | 12日    | 米国       | 4月消費者物価～前年比+3.8%と約3年ぶりの伸び。市場に年内米利上げ観測が台頭するきっかけ     |
| -  | 14-15日 | 米国<br>中国 | 米中首脳会談～米イランの戦闘終結を巡り中国から具体的な支援得られず                  |
| -  | 18日    | 中国       | 月次経済指標～内需低迷を反映し4月鉱工業生産、4月小売売上高が予想を下回る結果            |
| ○  | 19日    | 日本       | 1-3月期実質GDP(1次速報)～前期比年率+2.1%と予想を上回り2四半期連続のプラス成長     |
| -  | 22日    | 米国       | FRB(連邦準備理事会)議長にウォーシュ氏が就任～ホワイトハウスでの就任宣誓式は1987年以来    |
| -  | 25日    | 日本       | 高市首相が2026年度補正予算案の編成を表明～一般会計の歳出規模は3兆円強の見込み          |

評価は株式市場の見方:○はプラス、-は中立、●はマイナス



## 今後の重要スケジュール

| 日付     | 国/地域      | イベントや経済指標                      |
|--------|-----------|--------------------------------|
| 6月 月内  | 米国<br>イラン | 和平協議で合意[観測]                    |
| 1日     | 米国        | 5月ISM製造業景況指数                   |
| 3日     | 日本        | 植田日銀総裁講演                       |
| 5日     | 米国        | 5月雇用統計                         |
| 10日    | 米国        | 5月消費者物価指数                      |
| 11日    | ユーロ圏      | ECB(欧州中央銀行)理事会                 |
| 15-16日 | 日本        | 日銀金融政策決定会合                     |
| 16-17日 | 米国        | FOMC(連邦公開市場委員会)景気・物価・政策金利見通し公表 |
| 19日    | 日本        | 5月全国消費者物価指数                    |

出所:報道資料を基に作成



## 今後のマーケットに影響を与える重要ポイント

### 1 米国とイランの和平協議～合意案の焦点

和平協議は紆余曲折を経ながら継続しています。合意案の焦点はホルムズ海峡の開放と核開発問題。報道によれば、まず停戦を60日間延長、最初の30日の間にホルムズ海峡の機雷を掃海すると共に、60日間で核開発問題を協議するという計画です。ただ、機雷の完全な除去には数ヵ月かかるとの見方が有力。また、傷んだ中東のエネルギー施設の復旧に時間がかかるとの見通しもあり、原油価格が紛争前に戻るまで時間がかかりそうです。

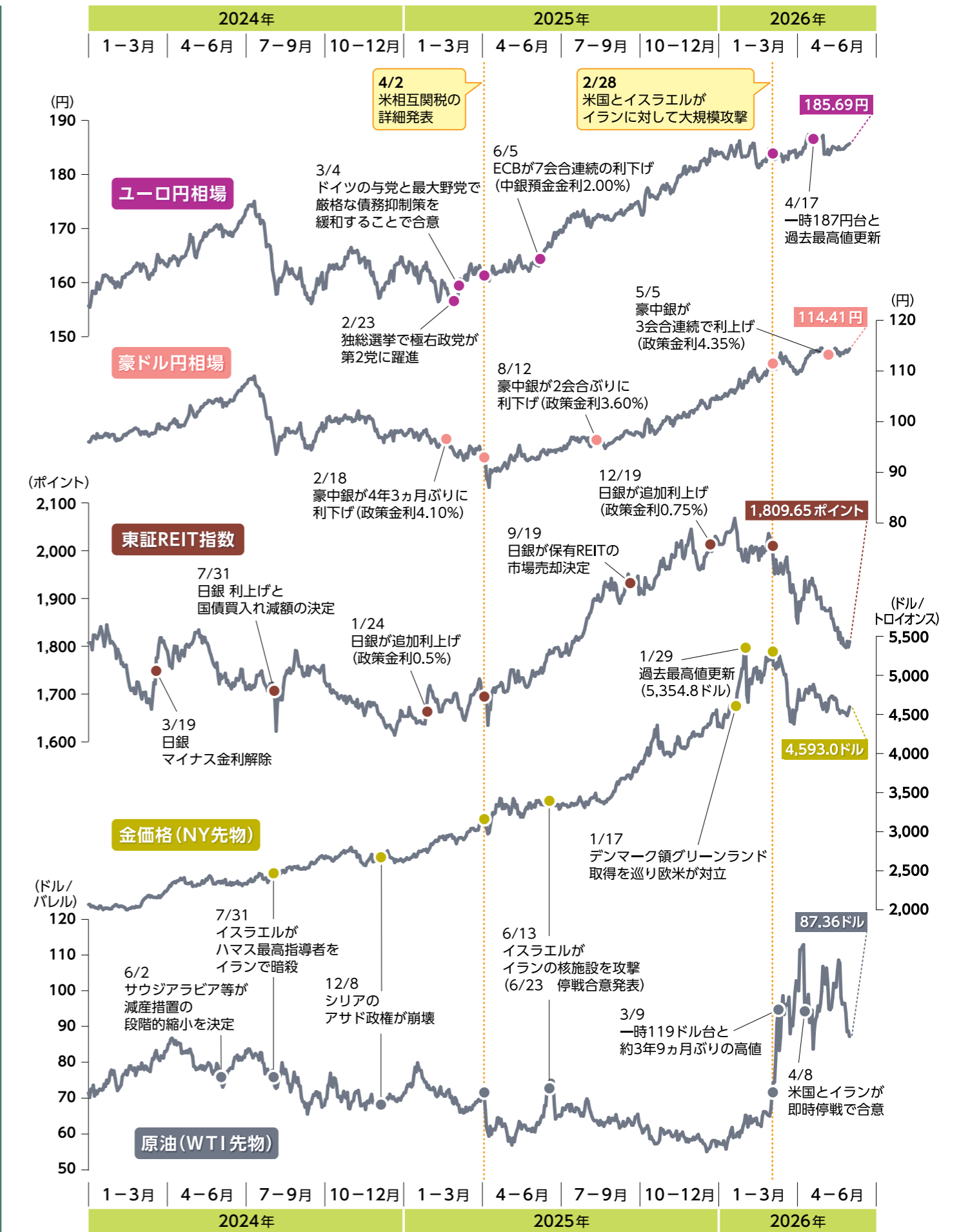
### 2 6月日銀会合～市場は利上げ実施を織り込みへ

6月15~16日に日銀金融政策決定会合が開催されます。前回4月会合では3会合連続で政策金利据え置き。一方で、9名の政策委員のうち3名が物価の上振れリスクの高さなどを理由に利上げを主張しました。その後に公表された「主な意見」でも原油価格高騰に伴う物価上振れに懸念を示す意見が続出。中東情勢の動向次第の面もありますが、市場では6月日銀会合での利上げ確率を8割弱織り込んでいます。

### 3 6月FOMC～ウォーシュ氏がFRB議長就任後、初の会合

6月16~17日にFOMCが開催されます。今回はウォーシュ氏がFRB議長就任後、初の会合。市場で中東情勢を背景にインフレ再燃に対する警戒感が高まっている中、ウォーシュ新議長の金融政策の方向性に関する見解が注目されます。会合では4会合連続の政策金利据え置きが市場予想の中心。また、四半期に1度公表予定のドットチャート(政策金利見通し)では、年内の政策金利据え置きがガイダンスが市場では有力視されています。

# マーケットを動かしたイベント



(データ期間) 2024/1/1~2026/5/29 (資料) QUICK 日本経済新聞等

●東証REIT指数の指数値及び東証REIT指数に係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社の知的財産です。  
 ●本ご案内のデータ・分析等は過去の一定期間の実績に基づくものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を保証もしくは予想するものではありません。また各指数に直接投資することはできず、費用や流動性の市場要因も考慮されておられません。  
 ●本ご案内は、三井住友銀行が信頼できると判断したデータを基に作成していますが、データ・分析等の正確性・完全性等について当行が保証するものではありません。  
 ■本資料に関するお問い合わせは、現在のお取引店までお願い申し上げます。